

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和8年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川文学振興会						
設立年月日	昭和57年4月1日 (名称変更：平成23年4月1日)			代表者名	理事長 荻野 安奈		
所在地	横浜市中区山手町110			電話番号	045-622-6666		
基本財産等	110,000,000	円	県出資額	53,000,000	円	県出資率	48.2 %

2 法人運営における現状の課題（法人）

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和7年度は、特別展を2回、企画展を2回開催した。また、冬季には、常設展を2回開催し、同時開催でコーナー展示を行った。利用料金収入、事業収入とも予算額を上回り、利用料金収入の増収分は施設の老朽化による修繕工事、諸物価高騰の影響による経費の増加に充てた。利用者数では、夏季の記録的猛暑や計画修繕工事等の影響もあり、目標数に届かなかった。 ○利用料金収入のうち、課題となっている会議室利用料は、令和6年度比153%まで回復したが、依然としてコロナ禍前令和元年度の水準には達していない。利用促進のため、会議室内、ホール内にWi-Fi機器の増設を行い、広報面でもホームページやチラシでのPRに務めている。今後は、利便性を高めるためプロジェクター等の常置を検討していきたい。 ○県計画修繕工事の空調工事に対応するため令和7年12月から令和8年2月にかけて、閲覧室を休室とした。会議室は工事期間中の類似施設からの資料返却や来客等に対応するため、中会議室、小会議室の一般利用を制限した。
--

3 法人の県主導第三セクターとしての検証（所管課）

(1) 公益性について

特別資料のデータをインターネット上で閲覧可能とし、ホームページでの講演会音声の公開、新たに公式Facebookを開設する等SNSでの情報発信を強化しており、県民が文学へ触れることができる機会を提供している。さらに、子ども向けの映画会、ワークショップ等のイベント開催、小・中・高等学校への巡回パネル文学展の提供、アニメ、漫画とのコラボレーション企画等幅広い年齢層に文学へ触れる機会を提供するなど公益性の高い事業を実施している。
--

(2) 県行政との関連性について

「かながわ文化芸術振興計画」の基本施策で掲げている「県民の文化芸術活動の充実」、「文化芸術の振興を図るための環境整備」に基づき、展覧会の開催、文学の普及活動の実施、ホームページやSNSによる情報提供や、収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進等を実施している。
--

(3) 民間代替性について

文学関係者やその遺族などからの収蔵資料の寄託や寄贈、特別展の開催、また館内収蔵資料の利用や他の文学資料収蔵施設（文学館、大学等）との提携・調整などは、文学振興会が設立以来40年近くにわたって蓄積してきた、高い専門性に裏打ちされた資料整理・保存に関する経験・ノウハウへの信頼から成立しているもので、容易に獲得・継承できるようなものではなく、民間代替性は低い。
--

4 経営改善目標の達成に向けた取組実績等（法人）

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度自己評価
1	利用者数（展示・閲覧・会議室利用） （下段は展示関連動画等閲覧数）	人	29,787 (48,300)	57,983 (48,400)	62,557 (60,400)	53,824 (60,600)	47,600 (60,800)	B
		件	7,066 (2,600)	5,295 (2,700)	2,912 (2,800)	6,723 (2,900)	6,388 (3,000)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	展覧会の総観覧者数は記録的猛暑等の影響もあり28,924人と令和6年度を下回ったが、観覧者数が1万人を超えた秋の特別展「没後70年 坂口安吾展 あちらこちら命がけ」だけでなく、いずれの展示も内容について高い評価を得た。来館者を増やす試みとして、令和6年度につづきアニメ・コミックとのコラボを行った。工事対応のため、閲覧室は12月から2月上旬を休室、会議室は利用制限を行った。展示関連動画等閲覧数では、大きく目標を上回ることができた。				引き続き、様々な取組により、来館利用者数目標の達成に努めたい。会議室利用者数については、設備備品の充実を図り、利便性を高めるとともに、広報に努めることで、利用増につなげたい。また、展示関連動画等の告知に努め、閲覧数を伸ばしていきたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	7 年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数 (下段はオンラインによる 視聴数)	人	375 (800)	752 (850)	1,079 (900)	832 (950)	1389 (1,000)	A
		件	552 (170)	212 (190)	56 (210)	97 (230)	98 (250)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	高等学校文化連盟図書専門部会との共催行事に加え、夏の中島敦展に関連し、手話付きお話し会等を企画、例年開催している映画会も開催した。令和7年度は、新たな試みとして近隣の西洋館とのハロウィンイベントを行った。				引き続き若年層向けイベント等の充実を図りたい。若年層向けのオンラインコンテンツについては新たな展開を探っていきたい。			
	備考							
	3年度に公開した「佐藤さとる展—『コロボックル物語』とともに—」展覧会ダイジェストは、7年度中に366件の視聴があった。							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実施校数 (下段は内、データ版によるパネル展利用数)	件	28 (16)	30 (16)	28 (16)	31 (16)	28 (16)	A
		件	10 (7)	11 (7)	5 (7)	3 (7)	10 (7)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	県内を中心に中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施した。令和7年度はデータ版も目標に達することができた。				引き続き、学校に向けてのパネル文学展広報の充実を図り、利用数の維持に努めるほか、公共図書館等にも利用を呼び掛けたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度自己評価
4	HPアクセス数	件	192,549 (127,500)	282,258 (128,000)	343,391 (172,000)	365,156 (172,500)	337,609 (173,000)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	開館40周年を機に進めてきたHPのリニューアルは10月に完了し、秋の坂口安吾展に合わせて新サイトをオープンした。また、中島敦直筆資料デジタルアーカイブでは、貼込訂正部分の下にある文字を表示できる機能を追加製作・公開した。				HP、SNS等での発信に加え、動画コンテンツ、資料アーカイブ等の充実も図っていききたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度自己評価
5	「神奈川近代文学館友の会」の会員数 (下段はメールマガジン登録者数)	人	848 (850)	1,033 (900)	990 (950)	1,034 (1,000)	918 (1,000)	A
		人	1,728 (1,725)	1,865 (1,775)	1,989 (1,825)	2,102 (1,875)	2,110 (1,925)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	郵送料の上昇に対応するため、令和7年度から年会費を値上げした。同時に従来の年会費で郵送物無しのプランの運用も開始した。友の会の会員数は、展示観覧者に連動する部分があるため、値上げが直接の原因とも言い切れないが、今後も値上げについて理解を求め、郵送物無しプランについても広報を行いたい。メールマガジンについては目標を達成した。				引き続き、友の会の特典をアピールし、会員数の維持、新規獲得に努めたい。また、メールマガジンについては、公式noteでメールマガジンの内容と重なる機関紙記事抜粋の公開を開始したため、公式noteでの発信に移行することとした。			
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	年度自己評価
1	利用料金収入	千円	7,654 (8,059)	14,674 (8,259)	15,463 (8,559)	14,638 (8,859)	11,676 (9,259)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	観覧料収入は予算額を達成することができた。会議室利用料は、令和6年度比153%まで回復したが、依然としてコロナ禍前令和元年度の水準には達していない。				会議室内、ホール内にWi-Fi機器の増設を行い、広報面でもホームページやチラシでのPRに務めている。今後は、利便性を高めるためプロジェクター等の常置を検討していきたい。			
	備考							
	令和7年11月から令和8年2月の県計画修繕工事(空調機工事)期間中、類似施設からの資料返却や来客等に対応するため、中会議室、小会議室の一般利用を制限した。							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度自己評価
2	事業収入	千円	4,327 (5,530)	6,351 (5,830)	7,204 (6,130)	12,386 (6,430)	9,291 (6,630)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	春の特別展「大岡信展」、秋の特別展「坂口安吾展」について、図録を出版社から刊行したため、頒価が上がり、刊行物販売収入が増加した。				引き続き講演会等イベントの広報と図録の充実に努めていきたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	年度自己評価
3	年間電力使用量	kwh	707,648 (781,300)	682,453 (781,100)	670,917 (780,900)	737,555 (780,700)	712,839 (780,500)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	資料保存の観点から適切な温湿度を維持しつつ、節電に努めた。				今後も節電対策を進めたい。			
	備考							
	令和7年11月から令和8年2月にかけて、県計画修繕工事による空調機工事を行った。							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	年度自己評価
4	年間電力料金	千円	17,902 (19,350)	23,143 (19,300)	19,120 (19,250)	19,053 (19,200)	20,879 (19,150)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	年間電力使用量は目標を下回ることができたが、燃料費調整額の上限撤廃、再生可能エネルギー発電促進賦課金（再エネ賦課金）の単価引き上げ等料金の上昇により、年間電力料金の削減目標を達成することができなかった。				今後も照明のLED化等の節電対策を進めるとともに、資料保存の観点から適切な温湿度を維持しつつ、空調機等の運転設定により電力料金の節減を図りたい。			
	備考							

5 財務状況（法人）

（単位：千円、％）

区分		5年度	6年度	7年度	増減率 (前年度比)	備考
貸借対照表	資産	460,866	455,005	458,797	0.8	
	流動資産	64,892	45,716	58,779	28.6	
	固定資産	395,974	409,289	400,018	△ 2.3	
	負債	286,896	283,820	287,768	1.4	
	流動負債	59,744	39,679	52,981	33.5	
	固定負債	227,152	244,141	234,787	△ 3.8	
	正味財産	173,970	171,185	171,029	△ 0.1	
	指定正味財産	78,000	78,000	78,000	0.0	
	一般正味財産	95,970	93,185	93,029	△ 0.2	

区分		5年度	6年度	7年度	増減率 (前年度比)	備考
正味財産増減計算書	一般正味財産					
	経常収益	454,465	450,679	453,783	0.7	
	経常費用	452,281	452,652	452,911	0.1	
	事業費	449,123	449,659	449,768	0.0	
	うち人件費	243,604	245,288	244,136	△ 0.5	
	管理費	3,158	2,993	3,142	5.0	
	うち人件費	127	136	130	△ 4.4	
	評価損益等計	△358	△358	△358		
	評価損益等調整前当期経常増減額	2,185	△1,973	872		
	当期経常増減額	1,827	△2,331	514		
	経常外収益	0	0	0		
	経常外費用	0	0	0		
	当期経常外増減額	0	0	0		
	当期一般正味財産増減額	1,827	△2,785	△156		
	指定正味財産					
	当期指定正味財産増減額	0	0	0		
	正味財産期末残高	173,970	171,185	171,029	△ 0.1	

(単位:千円、%)

区分		5年度	6年度	7年度	増減率 (前年度比)	備考
県の財政的支援※	補助金					
	交付金					
	負担金					
	貸付金					
	利子補給					
	合計					
	県の財政的支援の割合 (合計/経常収益)					

※第三セクター等の指導、調整等に関する要綱に基づく支援区分

区分		5年度	6年度	7年度	増減率 (前年度比)	備考	
参考	①	委託料(指定管理料含む)	413,887	410,043	416,057	1.5	
		合計(県の財政的支援+委託料)	413,887	410,043	416,057	1.5	
		県の財政的関与の割合 (合計(県の財政的支援+委託料)/経常収益)	91.1	91.0	91.7	1.1	
	②	債務保証(残高)					
		損失補償(残高)					

指標	計算式	5年度	6年度	7年度	増減率 (前年度比)	備考
正味財産比率	正味財産/(負債+正味財産)	37.7	37.6	37.3	△ 0.8	
流動比率	流動資産/流動負債	108.6	115.2	110.9	△ 3.7	
人件費比率	人件費/経常費用	53.9	54.2	53.9	△ 0.5	
管理費比率	管理費/経常費用	0.7	0.7	0.7	0.0	

6 取組実績等についての総括（法人）

○前年度末から開催した春の特別展「大岡信展 言葉を生きる、言葉を生かす」は10年ぶりの現代詩の展覧会となった。続く会期でも企画展「清岡卓行展——大連、パリ『円き広場』」で現代詩をとりあげ、会期をまたいで開催した連続講座「文学の教室」では「現代詩入門」をテーマとした。初夏の「清岡卓行展」夏の企画展「中島敦の手紙展——おとうちゃんからの贈り物」は、記録的猛暑等の影響があった。総観覧者数は28,924人と令和6年度を下回ったが、観覧者数が1万人を超えた秋の特別展「没後70年 坂口安吾展 あちらこちら命がけ」だけでなく、いずれの展示も高い評価を得た。

○展示企画に連動した講演会等の行事、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを実施した。新たな試みとして、定員を絞った連続講座「文学の教室」を企画し「現代詩入門」「自分史を書く」の2講座を行い好評を得た。戦後80年記念対談として、戦後の女性の生き方テーマに荻野アンナ理事長、太田治子評議員の対談イベントを開催。かなぶんキッズクラブでは初の試みとして神奈川県「絵本の手話での読み聞かせ会」講師派遣事業を活用し「手話付きおはなし会」を開催した。地域との連携として昨年に続き山手周辺文学散歩を行った。吉川英治の記念碑建立1周年を記念した「文豪 吉川英治講演会」の共催や有隣堂BASEGATE横浜関内店とのコラボレーションなど積極的に地域の団体・企業と協力関係を築いた。また、西洋館ハロウィンイベントに初めて参加、地域の親子に文学館に親しんでもらうきっかけづくりとした。新たな試みとして神奈川県文化賞未来賞記念講演会を県と共催。若い世代の参加があった。

○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、パネル文学展の提供数を維持することができた。夏の企画展、冬の常設展でアニメ・コミックとのコラボを行い多くの若年層が観覧した。ワークシートを提供することで、展示をじっくり観て理解を深めてもらうことができた。引き続き、高等学校文化連盟図書専門部会や小・中・高校との連携を図り、若年層のリピーターを増やしていきたい。

7 取組実績等についての総括（所管課）

○会議室等へのWi-Fi機器の設置、広報強化から会議室の利用者数は増加しており、利用料金収入は目標を達成しているものの、特に展示観覧者数については減少がみられるため、今後も観覧者数増加のための更なる取組が必要と考えられる。

○オンライン事業等に関して、令和7年10月にリニューアルを行ったHPアクセス数は目標を大幅に上回っている。展示関連動画閲覧数やパネル巡回文学展のデータ版利用数も増加し、目標を達成していることから高く評価できる。

○また子ども向けのイベントとして初めて「手話付きおはなし会」を開催、県との共催で、神奈川県文化賞未来賞受賞記念講演会を初めて実施する等、若年層向け行事を積極的に実施しており、参加者は大幅に増加している。今後も幅広い世代への文学振興のための取組を期待したい。